

木田市長の



コミュニケーション

vol.49

日本の政治、新時代へ

歴史上、非常にまれな与野党逆転の衆議院議員総選挙が終わりました。

自民党が大敗した理由は、確かに多くの原因が考えられます。年金問題、天下り問題、国民生活の格差の拡大、多くの大臣の度重なる不祥事、次々に交替する総理大臣、麻生総理大臣の不適切発言、などなど…。

しかし、これら多くの理由があったにしても、その負け方が異常な程であると感じたのは、わたしだけではないでしょう。

麻生総理は、就任直後や小沢民主党代表（当時）の秘書問題発生時など、解散のチャンスがありました。

しかし、自信家の総理は、

もつとばん回できると考えたのか、解散には踏み切りませんでした。任期ギリギリの間切れまで決断できなかったら、負けるのは目に見えています。大敗した原因は、よき指導者がいなかったということにもなると思います。

しかし、自民党はこれで終わったわけではありません。4年前には、民主党が大敗をしながら、今回このような復活をした前例があるからです。

基本的には、与野党が選挙で入れ替わるということは良いことです。

これが定着すれば、民主党が勝つたり、自民党が勝つたりということが起こるでしょう。

そのお手本はアメリカの民主党と共和党です。

今回の選挙で、国民は自分たちの投票で政権を替えられるということを知り、政党はうかうかしては国民によってクビになってしまうということを痛感しました。

民主党幹部の多くは、もともと自民党に所属していた人たちであり、根っこは同じであつたけれど、長い間、野党にいて、自民党の悪い点や国民の気持ちなど、多くのことを学んだのだと思います。その結果として、今回の選挙で国民の心をつかむことができたのでしよう。

しかし、国民の期待が大きければ大きいほど、民主党の行く道は困難です。

マニフェストを実現するには、多額の予算が必要です。借金をどんどん増やすわけにはいきません。現実には、多くの問題が待ちかまえていて、口で言うようにはいきません。規模は小さいが、市政をあずかる者として、そのあたりの苦労は痛いほどわかる気がします。

人権文化の花を咲かせよう

Vol.87

自分しか変えられない

「みちしるべ（VOL・393）」2月3日号の松村智広さんの三重県人教・分野別研究会での講演記事の中に、『僕は、同和教育とは、人権教育とは、人のことを考える。お涙ちようだいちゃうで。部落の人の言うことを聞く。そのことを通してね、自分を見つめる。人なんか変えることできませんよ、自分しか。でも自分を変えることに成功すれば、人も変わりますよ。そうでしょう。人を変える、そんな恐れ多いというかね、そんなことできませんよ。でも、自分しか変えられませんから

ね。』という言葉がありました。

わたしも昨年まで教育にかかわっていましたが、「こどもたち一人ひとりを、少しでも良くしよう」と強く思い、自分なりに一生懸命頑張り、日々実践してきたつもりでした。そんな中で、「3〜4人の児童・生徒を、良いように変えることができた」と心ひそかに思っていました。しかし、前述の言葉を読んで、「そうではなかった」ことにはつきり気付きました。

たぶん、わたし自身が、家庭訪問・地区懇談会・学校行事などで保護者や地域のかたがたとお話ししたり活動したりする中で、こどもたちを一面だけでなく、多面的に捉えられるようになったのだと思います。

その結果、わたし自身のこどもたちを見る目（意識）が、より深く・広く変わったのだと思います。こどもたちは、それを敏感に感じ取り、それなりの対応してくれたのです。

